

地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。

今号は、関西地域ブロック、中国・四国地域ブロック、九州ブロックをご紹介します。

関西地域ブロック から

関西地域ブロック担当理事
松端 克文（桃山学院大学）

関西地域ブロックでは、昨年（2014）度に『関西社会福祉研究』を創刊しました。すでに他の6つの地域ブロックでは研究紀要を発行していますので、紀要の発行としては後発になったのですが、関西では全国学会に先駆けて1950年に「関西社会福祉学会」を設立し、独自の学会活動を展開してきました。

関西の社会福祉に関する研究の特徴のひとつは、大学間の垣根を越えて、研究者同士のヨコのつながりがゆるやかに形成されているところにあると思います。2004年5月より年3回のペースで実施しています「若手研究者・院生情報交換会」は、今年度で36回になります。2015年9月5日に岡田忠克会員（関西大学）の企画で「地域包括ケアのためのプラットフォームづくり～多職種連携にむけて」をテーマとして、第34回の情報交換会を開催しており、2016年1月16日に開催された第35回の情報交換会は、院生企画として黒木保博会員・国際交流担当理事（同志社大学）にご協力いただき、初の試みとして「留学生ワークショップ『日本で働く外国人研究者のあり方』」を開催しています。3回のうち2回を関西社会福祉学会の理事・監事が企画し、残り1回は院生が企画するようにしていますが、こうした取り組みができるのも、所属組織の壁にとらわれず柔軟に連携ができているからだといえます。

関西の社会福祉・ソーシャルワークの研究や実践に尽力され、全国学会でも多年にわたりその運営の中核でご活躍されてきた龍谷大学の山辺朗子会員が、昨年、ご逝去されました。山辺会員は、上記のような関西の社会福祉の研究風土を育み、発展に貢献されてきた功労者です。ご専門の研究領域であったソーシャルワークをそのまま実践されているかのように、関西の大学間、研究者間、さらには研究者と実践現場とをつなぎ、それぞれがエンパワメントしていけるように導いてくれたように思います。心よりご冥福をお祈りいたします。

関西地域ブロックの今年度の予定としましては、2016年2月6日（土）に金澤ますみ会員（桃山学院大学）の企画のもと「子ども家庭福祉の研究課題と『学校』の接点」をテーマとして、第36回若手研究者・院生情報交換会を開催します。

また、2016年3月6日（日）には、大阪人間科学大学において、2015年度関西社会福祉学会

年次大会及び日本社会福祉学会学術フォーラムを開催いたします。午前中は、例年通り、関西社会福祉学会プログラムとして自由研究発表を行います。年次総会を挟んで、午後からは「当事者主体の障害者地域生活支援を問う」をテーマに、日本社会福祉学会学術フォーラムをととして、石渡和実会員（東洋英和女学院大学）による講演および加納恵子会員（関西大学）をコーディネーターとして、玉木幸則・障害者総合相談支援センターにしのみやセンター長、上田晴男・堺市権利擁護サポートセンター 所長、小山聡子会員（日本女子大学）からご発題いただき、シンポジウムを開催します。

全国学会の選挙結果をふまえて、来年度は関西地域ブロック・関西社会福祉学会も新たな役員体制になりますが、引き続き関西の地域性を活かした研究を展開していければと思います。引き続き、よろしく願いいたします。

中国四国地域ブロック から

中国四国地域ブロック担当理事
横山 正博（山口県立大学大学院）

中国・四国地域ブロックの活動の三つの柱は、毎年1回開催されるブロック大会、年1回の機関誌「中国・四国社会福祉研究」の発行、中国・四国地域ブロック会報の発行です。

今年度より、これに加えて、会員連携の共同研究を本格化させたところです。中国・四国地方の特定の社会福祉課題の解決を目指した共同研究を進めていきたいと思っています。具体的には、昨年7月に開催された地域ブロック大会において、「中国・四国地方の中山間地における社会福祉研究」をテーマとした特定課題セッションを企画しました。広島国際大学の渡辺晴子会員より、「中山間地域における社協コミュニティワークと実践研究の視点」、山口県立大学の横山正博他会員より、「中山間地域の地域包括ケアシステム構築を担う人材育成の課題」と題して報告がなされ、過疎化や少子高齢化が急激に進んでいる中山間地域及び島嶼部が多い中国・四国地方において、都市型モデルの社会福祉から一線を画した新しい社会福祉のあり方について討論することができました。

さらに、昨年、会員に対して、中国・四国地方の特定課題について研究に取り組まれている方をアンケート方式でお伺いしましたところ、6名の会員から手が上がりました。まずは、今まさに取り組んでおられる会員の研究成果を集結し、中国・四国地域ブロックとして取り組む課題を整理する作業を行っているところです。今後、会員が連携をして共同研究会を積み重ね、実際のフィールド調査を行いながら、研究成果を学術書として中国・四国ブロックから刊行する予定です。そのための資金がまだ不足しておりますので、外部資金の獲得も含めて資金獲得の活動を進めて参りたいと思っています。また、従来から取り組んできました若手研究者の育成については、本共同研究の中に組み入れたいと思っています。

なお、5月の総会時には、新しい地域ブロック担当の理事が選出されますので、そのもとで一丸となって中国・四国地域ブロックから社会福祉の課題解決に資する活動を展開していきたいと願っています。

九州地域ブロック から

九州地域ブロック担当理事
倉田 康路 (西九州大学)

九州地域ブロックにおきましては、毎年度開催される九州部会総会にて承認された事業計画に基づき、研究大会をはじめとして、機関誌「九州社会福祉学」の発刊などを中心に活動を行っています。会員は、500名を超える会員数を数え、地域別では関東地域や関西地域、中部地域に次ぎ、全国で4番目に会員数の多い地域ブロックとなっています。

研究大会はこれまでに50回の開催を超え、毎年、100名前後の会員が集まり、大会テーマに応じた基調講演やシンポジウム、研究発表が行われています。本年度(平成27年度)で56回を迎えた大会は九州保健福祉大学が開催校として宮崎県延岡市で開催され、「社会的孤立と見えない貧困」を大会テーマとして基調講演「隠された貧困ー動き出す貧困対策三法」(基調講演者 大山典宏氏(埼玉県職員)、シンポジウム「社会的孤立の現状と課題ー現場からの報告ー」(シンポジスト 児嶋草次郎氏(石井記念友愛社)、山本博之氏(田園調布学園大)、鶴田啓洋氏(やどかりサポート)、コーディネーター 山崎きよ子氏(九州保健福祉大)、コメンテーター 大山典宏(再掲))のほか、19の自由研究発表が行われました。大会参加者は360名を超え盛況裏に終了しました。平成28年度は長崎ウエスレヤン大学が開催校として長崎県諫早市で開催される予定となっています。

機関誌「九州社会福祉学」は、これまでに11号が発刊され、特に若手会員の研究発表の場として年々投稿数が増えている状況です。ちなみに過去5年間では、第11号7編、第10号8編、第9号9編、第8号7編、第7号9編の掲載がありました。今年度(第12号)も既に数多くの投稿があり、現在、編集規程に基づく編集作業が行われています。

これら研究大会の開催や機関誌の発行に加えて、これまでに九州の会員200名近くが3年をかけて作成した社会福祉の辞典、「21世紀の現代社会福祉用語辞典」(九州社会福祉研究会編、田畑洋一ほか編集代表、学文社)が発行されました。現在、九州の社会福祉士養成校などにて活用されています。

現在、九州部会においては九州部会運営委員会選挙にて選出された5名の運営委員および地域ブロック代表にて事業が企画され、運営が行われています。九州の特性を活かし、誇りをもって、これからの活動をすすめていかなければならないと考えています。会員の皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。